

飯田市教育委員会 平成 30 年 12 月定例会会議録

1 会議開会の日時 平成 30 年 12 月 14 日(金) 午後 3 時

2 会議の場所 飯田市役所 A301・302 会議室

3 出席者の氏名 教育長：代田昭久

教育長職務代理：北澤正光

委員：伊藤昇

委員：小澤由美子

委員：三浦弥生

【事務局】

教育次長：三浦伸一

社会教育担当参事：櫻井毅

学校教育課副参事：北原康彦

学校教育専門幹：高坂徹

生涯学習・スポーツ課長：北澤俊規

文化財担当課長：馬場保之

飯田市公民館副館長：秦野高彦

飯田市文化会館長：宮沢正隆

飯田市美術博物館副館長：池戸通徳

飯田市歴史研究所副所長：小椋貴彦

学校教育課課長補佐：滝沢拓洋

4 会議の顛末

△日程第 1 開会

代田教育長が定例会の開会を宣言した。(午後 3 時)

△日程第 2 会期の決定

本定例会の会期を本日 1 日に決定した。

△日程第 3 会議録署名委員の指名

会議録署名委員に小澤由美子教育委員に指名をした。

△日程第 4 会議録の承認

11 月定例会の会議録を承認した。

△日程第 5 教育長報告事項

○代田昭久教育長

A 4 裏表二枚で用意させて頂きました。項目としてはまだ議会中ではありますが先週、代表質問、一般質問が終わりましたので、第 4 回飯田市議会定例会の報告をさせて頂きたいと思っております。

1 番目としては、空調設備の状況についての説明、さらには三遠南信教育サミットの後、個別の教育長会議もしましたのでその話もお伝えできればと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まず、議会の中でテーマ 5 つ抜き出していますが、もう少し様々な角度からありましたが、ここ

では特に学校教育に関する視点で皆さんと共有ということで、5つのテーマについてお話しをしたいと思います。まず、2人の議員から質問がありましたが、飯田市の飯田コミュニティースクールについての質問がありました。答弁の骨子を私のほうから説明をさせていただきますが、御二人の議員ともですね、課題意識としては本格的に始まって1年半だと。ただ、市民や保護者そういう人達にまだまだ浸透してないなというのが大きな課題意識です。そういった課題意識にたって教育委員会としてはどう捉えているのかという質問なんです、教育委員会としてはこの1年半ある一定程度のスタートが切れ、順調に進行しているという認識をしています。特にこの1年半で大きく進んだところとしては、目指す子ども像というのを地域の方々、保護者の皆さんと一緒に学校が考え、その目指す子ども像に向けて、もちろん学校がすること、そして地域がすること、保護者がすること、こういったことを具体的な行動目標に落として学校の経営目標、グランドデザインに明記をしたということそのものが、大きな一歩なんじゃないかというふうに思います。議員さんご指摘のようにこれをどういうふうに普及させていくのかという問題はあるにしろ、こういった形で多くの人達が参画をし始めたということは一定程度の評価ができるというふうに思っています。質問のもう1つはコミュニティースクールというのは学力の向上に効果があるのかというご質問を頂いています。これはコミュニティースクールと小中連携・一貫教育の説明で常にさせて頂いていることですが、コミュニティースクールというのは小中連携・一貫教育の9ヵ年の学びをしっかりと結んでいくものだ。小中連携9ヵ年の学びを縦糸とするならば、コミュニティースクールというのはその縦糸を、地域や保護者の力でしっかりと横糸で結びつけて、縦糸横糸がしっかりとすることで子ども達がしっかりと育まれる。そもそもの小中連携・一貫教育の目的は学力の向上、体力の向上、そして子ども達の不登校対策という大きな目標があったので、そういった小中連携・一貫教育しっかりとさせることというのは当然最初の目標であり、学力向上にも寄与してくるというふうに考えていると答弁をしています。具体的には、いま9の中学校の中の6の中学校で、地域が学校の学習活動を支えるという場は「竜峡塾」や「緑ヶ丘中学校放課後学習会」などがスタートし始めていて、こんな活動もコミュニティースクールの1つの取り組み、成果になってきているかなというふうに思っています。冒、頭申し上げた、そうは言ってもまだまだ地域に理解が進んでいないということの認識は、市教委としても持っていますので市教委の持つ学校便りや、ホームページ等を通じて情報発信をしていきたい。特に全ての学校運営協議会に学校教育課としては参加をしております。その中で、理念の確認をしたり、会議に入っていると他の学校運営協議会ではどんなことをしているのかというような質問もあるので、そういった時には良い取り組み、好事例を共有したりというような活動を行っています。ただ市教委が頑張っているだけでは限界があるので、今後は各学校の学校便りや各地域の地域便りを使って、それぞれの地域で発信していくことを促進していきたいなというふうに思っています。この事に関しては今週月曜日にあった教頭会でも各学校でコミュニティースクールの活動というものを意識的に書いていって欲しいと伝えています。もう1つは、仕組みがわからないというよりも、活動が少しずつ始まっているので、ぜひ参加して頂くようにと呼び掛けること。実際に活動に参画してもらうことが理解をしていく上では大きな流れになってくるかなというふうに思って、こういう趣旨の答弁をしています。ぜひ委員の皆さんもコミュニティースクールが分からないよという話があったら、こんな説明をして頂き、ぜひ参画することで分かってくるんじゃないのかということ草の根的に広めていきたいと思っておりますので、お力添えよろしくお

願いたします。

2番目に関しては、学力についての質問がありました。飯田市の学力の状況はどうかということで、ここに書いてありますように、国語・理科では小学校同水準であり、算数は全国平均よりやや下回る。一方の中学校では、理科は全国平均と同水準であるが国語・数学では全国平均と同水準かやや下回るという状況で、これは県との比較でも同様だということです。決して高いとは言えない状況の中の学力で、対策はという質問があり、学力テストをどう生かしているのかということがありましたのでその質問に対しては、学力テスト・学力調査というのは校長会の教育問題検討委員会を中心にしっかりと分析し、いま各学校で具体的な取り組みになっていますということを言っています。また、教育委員会として積極的に進めたいことの1つとして、全国学力学習状況調査というのはテストをするだけではなくて、子ども達のいわゆる生活実態を含めた学習状況調査、教育環境の回答アンケートがあります。そこから見える子ども達の課題などもありますので、そういったものに関しては飯田市全体として課題地域への情報提供をすることによって、子ども達の基本的な生活習慣であるとか、学習習慣を定着させていきたいなというふうに思っています。ちなみにきょう、印刷刷り上がりなのでこの4時半に終わるまで、いまちょうど休み時間に聞きに行ったら、「今出ました。」と言っていました、大丈夫かなとは思いますが、4時半頃には届くかとは思いますが、今年度第2号になる「Hagu」の情報誌にも今回の学習状況調査の中でどんなところが課題になり、どんなところが飯田市の子どもの強みなのかということを経済委員会の分析を元に発行してありますので、ぜひ見て頂きたいなと思えます。

3番目の部活動についての質問もありました。これも2人の議員からありました。部活動の状況は教員の働き方改革等も含めてどうなんだということの質問趣旨ですが、いま飯田市の部活動は、いわゆる学校で行われている部活動は、多くが国の基準の範囲内で行っておりますが、部活動の延長としての社会体育活動ということを含めると、国の基準よりも多くなっているというのが現状で、ここについては課題認識があります。いま、下に四角の印で状況をお示ししましたが、今年度、大規模に各中学校の76の部活に対するアンケート調査を行い、年間の活動時間をいま具体的に把握している状況です。先生方の働き方改革という側面と、適切な部活動の時間の在り方ということも含めて、いま部活動がどうあるべきかということを進めているわけでございます。部活動指導員の導入はどうなるのかという質問もありました。これに関しては、いま申し上げた飯田市の部活動を今後どうするのかということは、いま活動の方向性を校長会と教頭会と連携して検討している段階です。今年度末、来年の3月に新たな部活動の方針というのを提示する予定で進めています。来年度は移行期間、再来年度から新たな部活動方針ができるように進めています。部活動指導員の導入に関しても、この新たな部活動方針に沿いながらということと現在、その中で検討しているということで、具体的に来年度始めるとか、再来年度始めるとかについては回答しておりませんが、どうやったら先生達、また子ども達にとっての良い部活動になるかを部活動指導員の導入も含めて考えていきたいというふうに思っています。

4番目、インターネット関連の質問が出ました。子ども達のネット依存の現状認識、またどんな取り組みをしているのかということの質問です。下に表を書き、お答えしましたが、ネットトラブルの相談は昨年と同時期に比べて飯田の中で、小学校が約3倍、中学校が約1.5倍ということで非常に増えています。また相談内容としては、小学校の場合は「ネットゲーム依存」、2番目の

相談が「画像・動画の投稿」、中学校の場合は第1位が「画像・動画の投稿」ということで、それぞれ、ほってはおけない内容と件数になっているという認識があります。これについても、まずは飯田市教育委員会としては家庭教育の啓発ということで、これも後ほどお配りする情報誌のほうにも毎号掲載しておりますが、そんな活動も行っていきたいのと、昨年までは中学校中心だったんですが、今年度から小学校・中学校もこのネットトラブルに関する研修会、学習会ができるようにということで、予算をつけて全ての小中学校の支援をしているという状況です。ただ、本質的な解決策としては子ども自身が主体的にネットトラブルを予防できるような意識を育むことが大事なかなというふうに思っていて、いま旭ヶ丘中学校の中では生徒会主導でSNSのルール作りをしているというような事例があり、こんな形で啓発活動とさらには子ども達自身の主体的な規範意識というのがまとまってくるといいなというふうに思っていて、しっかりと取り組んでいきたいというふうに思っています。

5番目の夏休みに関しての質問も出ました。県から方針が具体的にはまだ出ていないのですが、いずれ近いうちに出ると思います。方針が出された時に、どのように対応するのかというのが質問の趣旨です。具体的に出された時に児童生徒や保護者、学校とどのように反映していくのかという質問もありました。その中で市教委のスタンスとしては、そもそも夏休みというのは市教育委員会に委ねられた決定権としては学校であり、飯田市の中ではあらかじめ教育委員会の承認を得て校長が定めることとしているということですので、現実的には各学校でしっかりと検討進めて頂きたいというのが趣旨ですが、もちろん県がこういった方針を出されたものに対しては、問題提起として価値があるので、ぜひ検討して頂きたいなというふうには思います。そんな中で夏休みを延長する際には、現状でいま、授業時数がいっぱいいっぱいになっているのが現状です。夏休みを長くすることになると、例えば春休みを短くする、例えば体験活動や特別活動をやっているのをなくすという判断が必要ですので、県から方針が定められた分長くするという短絡的なことではなくて、子ども達にとって夏休みはどうあるべきかというのを学校だけではなく、地域、保護者を巻き込んで話し合いをして、各学校で検討してほしいなと思っていますし、そのような答弁をさせていただきました。

以上が議会定例会での主な質問内容と回答の骨子です。最終ページ4ページ開いて頂いて空調設備の整備に関してですけれども、前回申し上げた方針と大きくは変わっておりません。全市内、全28校、普通教室に空調設備を設置する形で予算化を進めております。これは先程説明した来年度の予算ではなくて今年度の補正という形で入りますので、今年度から始めて来年度なるべく早く多くの学校で空調設備が整うように始めているところであります。ただ現状としては、普通教室だけです。今後特別教室や職員室等の設置に関しては議論を進めていきたいというふうに思っています。

3番目としては、三遠南信教育サミット後の田原市伊良湖サミットということでご報告をさせていただきますというふうに思います。ことは湖西市で三遠南信教育サミットが行われて、教育委員の皆さんにも出席して頂き色んな活発なご議論を頂き、またそれぞれの色んな地域との交流を深められたかと思うんですけれども、私も今までで本当に貴重な場だなというふうに思っていて、その時に基調講演の中で田原市が学校の統廃合であまり上手くいかなかった、あまり上手くいっていない状況の赤裸々な発表があったので、これは勉強したいなということでその場でもう少し現地

の距離感も含めてどういうふうにやっているのかを知りたいと、私の方から田原市の花井教育長のほうにお願いしたら、ちょうど何名かの教育長からも言われたということで、そういう教育長が全部で4名集まって実際に現地視察をしながら今後の学校づくりということについての意見交換を行いました。みなさん田原市って行ったことがありますか。また感想聞かせて欲しいのですが、私びっくりしちやって、本当に海が見えて風光明媚で温暖なんです。風強いけれど温かくて。野菜や花の輸出がすごく多いので財政的にもなかなか恵まれていて、ただ人口減の中でどうしていくかという同じ課題はあるにしろ、本当に車で3時間半くらいでこんなに環境が違う都市があるんだということに本当にびっくりしてきました。伊良湖ビューホテル、渥美半島先端の伊良湖ビューホテルに行ってきましたけれども、正に国際的のサミットが開けるんじゃないかということで、僕たちサミットだというような話をさせて頂いたわけですが、ほんとにぜひ伊良湖のビューホテル、一度機会があったら行って頂ければと思います。そんな素晴らしいところでした。そんな環境のいい中で、教育長と集まってこれからの今後どうあるべきかという話をさせて頂きましたけれども、長野県でやる情報交換も非常に有効だとも思いますが、やはり三遠南信は文化が非常に近くて、街づくりがどうおこったのかとかですね、歴史文化が非常に近いところと意見交換をすると色々参考になるところも多いし、また飯田市としては特に学校の統廃合を含めて学校をこれからどうするかについては、他と比較すれば進んでいない自治体だと思いますが、先行して課題のあるところについては、学べる環境にあるのかなというふうに思って、そこは良い意味で良い環境にあるので、そういった先進的な事例も積極的に学んで、飯田市の在り方というものを考えていきたいなと思いました。ふと、飯田市からすると一番高い山が600メートルくらい、常に見渡す平原で育った子ども達と、この山並に雪が降る景色に感動する子ども達と、なんか資質が変わってくるのかなというふうに思ったりして、その環境の違い、子ども達の気質の違いって、こういった環境の中でどう変わってくるのかなと思うほど、非常に自然環境の違い、どちらも恵まれているのだけれども、環境の違いとところでそんな集いをしてきました。私からの報告とさせていただきます。

ありがとうございました。何かご質問等あればお願いします。はい、お願いします。

◇小澤由美子教育委員

質問ではないのですが、先日松尾地区の体育施設運営委員会というものがあまして、その時にも緑ヶ丘中学校の校長先生から部活動について大変困っているんだというお話がありまして、社会体育のなんかそういう色々な指導が来ているみたいな話を聞いたのですが、今後どういうふうにしていくか。色々な話が行われていく中で、やはり中学校の部活動の目的というのがちゃんとしていないので、やはり親と、なんですか指導員の方々はやはり、勝たせるための部活動をやりたい。なので、いっぱい練習もさせたいし、強い子達を出したい、勝てるチームを作りたい、でも本来の部活動はただスポーツを楽しんでいるだけの子ども達も試合に出れるような、部活動をしていくのが良いんじゃないかという意見もあり、現場は大変、どういうふうにしていったらいいのかというのが困っているという話も聞いて、飯田市の教育委員会としてもやはり方向性を段々に校長会、教頭会とかとも相談しながら、良い方向を決めていくのが、いま大変優先順位として考えていかなければならない問題なのかなと思って聞いてきました。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。いま、現状としては新しい活動方針を今年度末というふうに言っていますけれども、方針自体はですね、こういうふうに行くよというのは、校長会、教頭会で既に伝えていきますので、たぶんそれは国からというわけではなくて、教育委員会からこういう方針を進めたいという話が出ているというところなので、正にもう保護者へのメッセージが始まりつつあるのかなというふうに私自身捉えて、まずは興味関心を持って頂き、問題共有ができたというところから学校現場で始まっているなということで私自身はちょっと嬉しく感じました。

他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。はい、それでは引き続きよろしく願いいたします。

△日程第6 議案審議

○代田昭久教育長

日程第6 議案審議。本日の審議事項は2件となります。まず議案第40号平成30年度飯田市就学援助費支給対象者の認定についてお願いします。北原学校教育課副参事お願いします。

◎北原康彦学校教育課副参事

議案第40号ということでよろしく申し上げます。平成30年度飯田市就学援助費の支給対象者の認定についてでございます。飯田市就学援助費の支給について別紙がございますが、別紙の通り申請がありましたので、飯田市就学援助費の支給要綱第5条第1項の規定により飯田市就学援助費の支給対象者として認定をいたしたいというものでございます。よろしく願いいたします。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。いま学校教育課より認定の申請がありましたけれども、承認ということでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。それでは認定を承認ということでよろしく願いいたします。

議案第41号飯田市文化財の指定について、馬場文化財担当課長お願いします。

◎馬場保之文化財担当課長

はい、それでは議案第41号飯田市文化財の指定についてでございますが、まず別紙のほう、平成30年11月27日付けの答申書のほうをご覧頂ければと思います。当日第二回の飯田市文化財審議委員会を開催いたしまして諮問したところ、答申頂いたものであります。2ページ目の初段でありますけれども、答申の内容としまして「中央構造線程野露頭」と「中郷流宮岩」については、飯田市天然記念物として指定することが適当である、という答申がみたらあると思います。少し下がりました3の指定理由でありますけれども、中央構造線程野露頭につきましては日本列島の成り立ちを語る上で欠かせない大断層の露頭であること、それから活断層としての中央構造線を観察できる露頭であること、さらに中央構造線の活動を地表からも観察することができること、地震災害や防災教育の教材となること、以上のような価値が認められまして3ページ目の上になりますけれども、『中央構造線程野露頭は日本列島の成り立ちや激しい地殻変動の一端を直近に見ることのできる露

頭として極めて重要であり、当地の自然史や災害史を学ぶ上でも重要な位置づけにある。更に、地震に関わる防災教材としての活用も見込まれる。こうした価値を有する「中央構造線程野露頭」は文化財指定すべき内容である。』という評価を頂いています。続きまして中郷流宮岩につきましては、赤石山脈の成り立ちを身近に観察することができること、赤石山脈を構成する最も古い地層の岩塊であること、地域の災害記録の一つであり防災教育の教材になること、という価値が認められて『約2億1千万年前、遙か遠洋で堆積した地層がプレート運動により日本列島まで運ばれ、プレートによって圧縮されて押し上げられ、赤石山脈を形成するという壮大なストーリーを身近で観察することができる標本として極めて重要であり、当地の地史や災害史を学ぶ上でも重要な位置づけにある。こうした価値を有する「中郷流宮岩」は文化財指定すべき内容である。』という評価を頂いております。

戻りまして議案書のほうですけれども、飯田市文化財保護条例（昭和41年飯田市条例第33号）第2条の規定により、下記の物件を飯田市天然記念物として指定したいというものであります。指定する物件の名称につきましては(1)中央構造線程野露頭と(2)中郷流宮岩。所在地につきましては中央構造線程野露頭が飯田市上村16番地47、中郷流宮岩が上村の413番地3であります。所有者等につきましては記載の通りです。指定の根拠及び指定の種別につきましては、程野露頭のほうが飯田市文化財保護条例施行規則別表中、「飯田市天然記念物3地質鉱物(5)地層・断層など地塊運動に関する現象」のうち、「学術上貴重で、この地方の自然を記念するもの」に該当するため。それから中郷流宮岩につきましては、同「3地質鉱物(12)特に貴重な岩石・鉱物及び化石・埋没樹の標本等」のうち、「学術上貴重で、この地方の自然を記念するもの」に該当するため。ということで提案理由といたしまして、飯田市文化財指定申請のありました「中央構造線程野露頭」及び「中郷流宮岩」について、平成30年11月27付けで飯田市文化財審議委員会から飯田市天然記念物に指定することが適当である旨の答申がありましたので、これに基づいて上記2件について飯田市天然記念物として指定いたしたく提案するものです。よろしくご審議の程、お願いいたします。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。いま議案第41号に関する提案がありましたけれどもご質問・ご意見等あればお願いいたします。

私もこの飯田市文化財審議委員会のほうに出席をしているのでその様子をお伝えさせて頂くと、本当に専門的な知識を持った情熱のある方々が委員になっていらっしゃるって、それがこの物件に対する本当に色々な角度からこの価値をしっかりと見定めて頂いて、答申を指定させて頂いた訳ですけれども、その中から答申をして適当というご回答を頂いた訳ですけれども。本当に慎重な審議、また深い審議が行えたことをご報告させて頂きたいなというふうに思います。

◇伊藤昇教育委員

ちょっとすみません、いいですか。いま説明があつてちょっと私が聞き逃したか、漏れか、ちょっとすみません。3番の所有者の名称で、これどうゆうことなんですかね。これ中央構造線程野露頭の所有者が山崎さんで住所が2番の。

◎馬場保之文化財担当課長

それぞれ個人の方がご所有なんですけれども。ということでお名前のほうを控えさせていただきました。

◇伊藤昇教育委員

何を所有しているんですか。

◎馬場保之文化財担当課長

土地の所有です。はい。

◇伊藤昇教育委員

はい、わかりました。

◎馬場保之文化財担当課長

すみません。なお、程野露頭につきましてはですね、矢筈トンネルを出たところ、地蔵峠のほうへ戻りまして行く途中、約1kmぐらいの所、右手の山手のほうにあります。それから中郷流宮岩につまましては「喫茶かみ」の入口のところにあります。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。他にご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは議案第41号を承認ということでよろしくお願いいたします。

◎馬場保之文化財担当課長

ありがとうございました。

○代田昭久教育長

本日の議案審議はこれで以上となります。

△日程第7 協議事項

○代田昭久教育長

日程第7協議事項。本日の協議事項はございません。

△日程第8 陳情審議

○代田昭久教育長

日程第8陳情審議。本日の陳情審議はございません。

△日程第9 その他（教育委員報告事項）

○代田昭久教育長

日程第9 その他教育委員報告事項。それでは教育委員の皆さんから報告事項等あればお願いいたします。

はい、三浦教育委員お願いします。

◇三浦弥生教育委員

はい、お願いいたします。伊那谷文化芸術祭に出席をさせて頂きました。全日程を見て回ることはできません、主には二日ほど行かせて頂いています。感想として挙げさせて頂くのは25日の日のものです。ここは子どもさんたちが多く出演されるということで、この日見させて頂いておりますけれども、山本小学校6年1組の和太鼓ということで一つ見ております。これは学校訪問の際に和太鼓を実際に、地域の太鼓をやっているという団体の、すみません、名前を忘れてしまいましたが、団体の方が見えていてその指導を受けているといったところを学校訪問で視察のほうをさせて頂いておりました。その状況をこういった実際にステージ上で演じるといったところをこの日に見させて頂きまして、ああこういう形の目標を持って、また地域の人達からしっかりと指導を受けてこういう所で発表したんだなというところの一連の流れをここで見させて頂きました。見事なものがありました。そしてもう一つ、浪合小学校4年生の創作神楽踊りということで、こちらのほうは地元の歴史についてきちんと学ぶ、それを神楽にきちんと仕立てる、それを上映すると、演じるといったところを見させて頂きました。本当に素晴らしい舞台でした。こういった地元を愛するということにも繋がっていくと思いますし、地元のことを学んでそれを表現すると。担当の顧問の先生も一緒に演じられていたかと思えますけれども、とても良い学びの場を見させて頂いておられます。あと阿南高校ということで郷土芸能ということで新野の雪まつりを短く十何分にしたものを上映してもらっておりますけれども、こちらは阿南高校の生徒さん達、新野出身の子どもさんじゃない方たちも一緒になってそこにある地域、自分がいる地域の高校の、その地域の伝統文化といったものを勉強してくださっているといったところでは、本当にありがたいなという気持ちと、大切なそういった学びの場があつてこういった発表の場があるといったことに素敵だなというそんな感想を持ったところです。

そのほか人形劇場のほうで色々な今度は高校生、短大生の軽音といったところの発表を見て参りました。若い世代の人たちが文化芸術に親しむという、こういった発表の場が「響き」という発表の場がある、伊那谷文化芸術祭という様々な世代の人たちが文化と芸術の祭典を行う場所があるといったところを本当に感動いたしました。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。はい、北澤教育長職務代理者お願いします。

◇北澤正光教育長職務代理者

はい、私のほうから三点あります。

1点目は、11月22日の日の木曜日ですけれども、売木小中学校で「第61回下伊那視聴覚情報教育研究大会」がありました。売木小中学校はお子さんたちも人数はうんと少ないのですが、「花まる学習会」という民間の学習塾と連携して子どもたちの思考力、判断力、表現力を伸ばしたいとい

う趣旨で「売木モジュール」という、15分間で非常に濃縮された活動、学びを実践していました。内容は、声出し、四字熟語の音読、キューブキューブとあって立体の組み合わせ、算数と漢字、自己表現といったような5,6種類の中身を15分間で行います。一つの活動は2分くらいの単位でパッパと場面を切り替えていきます。コンセプトは「テンポ・スピード・タイミング、褒める」ということ。それで子どもたちにとっては集中的な脳トレの時間になる。脳を活性化させるということを目指して毎日やっているというので、児童生徒の人数は少ないんですが、小学生から中学生まで非常に声に張りがあるし、それから動きが生き生きしていました。そういう子どもたちを育てたいという願いで取り組んでいるところを見させてもらいました。一種の訓練と言えば訓練なので、逆にこの雰囲気についていけないお子さんにとってはどうなのかと質問したかったのですが、そこまで聞くことはできなかったのも、一つの取り組みということで学ばせていただきました。特に小規模の学校が、なんとか大人数の学校の子どもの達と同じような学びさせたいという趣旨で取り組んでいらっしゃるということで、非常に迫力ある取り組みをしていました。

併せて、情報教育の研究大会でしたから中学2年生のICTを活用した国語の学習を見てきました。内容は職場体験に行く4名のお子さんが、職場の方への自己紹介用のプレゼンテーションを作って、それを職場の方に伝わりやすいようにさらに練り上げをするという場面でした。各自が作った現段階のものを友達に見てもらって助言をもらうという授業です。そこまでは良い枠組みだと思ったのですが、結局はICTの活用といった時に必要感、必要性がある場面を使うことが大事だなということに改めて思いました。というのは、たった4人でやっているのに自分の意見を友達の画面に打ち込んで伝えるということをしていました。4人で顔を合わせているんだから、友達のプレゼンを見たらすぐに質問をすとか、「そこはもうちょっとこうしたら」と直接言葉で伝えあって、打ち込むのに使っている時間を浮かせ、その分の時間で自分のものをさらに高めるとか、直すとか、というように使うべきじゃないかと。話すべき場面はやっぱり口頭で伝えたい。目の前にいるのにそれをわざわざ打って、相手のところに入力している。機器を使う場面を見せたかったと言うことがあったのかもしれないが、ちょっと現実的ではない。それにあまりに他人行儀でしょという思いを持ちました。研究会でもそここのところが話題になりました。これはよそのことというのではなく、飯田市でも今盛んに始まってきたところですので、必要感、必要性のある場面でのICTの活用ということは、キーワードになると思って参加してきました。

2点目は、伊那谷文化芸術祭のことです。いま三浦教育委員さんが言われたことと全く同じところを見させてもらいました。私達は学校訪問で山本小学校の6年1組の獅子舞の練習場面を短時間見せてもらったことがありましたけれども、あの練習の延長が当日のステージになっていました。大塚太鼓という地元の太鼓グループが三年間指導してくださった成果が本当に存分に発揮されていて素晴らしいステージになっていました。その大塚太鼓のリーダーの方のお話だと「三年間見てきた中で、今日のステージが一番のステージだった。」というふうに評価されていました。コミュニケーションのことも含めてですけど、本当に地育力が生かされて、子どもたちがステージの上で思いっきり躍動しているという素晴らしい場面を見させてもらいました。ああいう場があることも素晴らしいし、それから総合学習や部活動の成果の発表がああいうところでなされるということも、とっても子どもたちにとってはありがたい場面だなというふうに思いました。ただし働き方改革等のことと含めた時、先生方のその陰にある尽力について、どのあたりで収めるのがよいのかという

ことも思いながら見てきた次第です。

3点目は、11月29日に飯田市の生徒指導研修会が市役所を会場として行われました。市内小中学校の主には不登校、不適応をコーディネートされている先生方が集まっての研修会でした。今回はそこへそういうお子さんたちを受け入れてくれている、千栄の「ふれあい農園おた」の太田いく子さんと、中央公民館三階にあるNPOの「FreeWing」の代表の方が来て、どんな活動をしているかということをお話いただきました。2つの施設を合わせると1年間で15名くらいの子どもたちがお世話になっているのですが、学校の先生方は意外と知らないんですね。学校の先生方にこんな活動をして、こんなお子さん方を受け入れているということを説明頂いて、学校の先生方も改めてそういう場所があるということを知ったということと、柔軟な子どもたちの居場所として、学校に登校さえしていれば良いということじゃなくて、学校以外の場所でもこういうふうに学ぶ場所があることの大切さについて、先生方が考える機会になっていました。紹介を聞いた後の先生方の協議も非常に言葉が生きているというか、かなり本質的な意見交換がありました。こういう柔軟な場所が必要だと認めているながら、国も県も飯田市も不登校について、例えば人数が何人かというようなことを学校に報告させ、数が増えたからいかにもそれがいけないことであるかのようなニュアンスを裏に含んでいる、それはどういうことなんだというような意見のやり取りもあったりして、かなり充実した生徒指導研修会になっていたということをご報告します。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。若干補足させて頂くとですね、いま売木村がやっている花まる学習会のモジュールで、佐賀県武雄市がじゃあ全市で取り組んでみようということで平成26年にですね、私が校長をしていた武雄市武内小学校で始めてみました。一年間だけで研修して始めたんですけども、当然北澤職務代理が言うように、こう、激しいわけです。「やった。」「できた。」という声が上がるので、「これはできない子はどうするの。」というのをせっかく先生方から挙げたんですけど、いわゆる塾側の回答としては「まあやってみればできるようになりますよ。」と言うので、大丈夫かなあと思ってみたらですね、少なくとも3年生まではほぼなんとなくやっちゃえるかなあというふうに見ています。ただ4,5,6のところは実は塾も中心が3年生までの塾なんですね。実際にお金を払ってくるのでそれが合わないと思ったら来ていないので、それは確かに公教育でやっているのと、選択してこう塾のモチベーションは多分違うんだろかなあ。それで全ての子どもたちがやるプログラムとしては私も非常に難しいなと思いましたが、130人の子どもですけど、最後までアンケートをちゃんとしっかり取りましたけれど、嫌だという子までは出ませんでした。4,5,6はですね、多少先生たちの配慮があって緩やかにします。音読もすごく大きな声を出すんですけども出していない子もちょっとそんなに責めなかったりだとかいうような形で。4,5,6は少し大人バージョンに切り替えたりして学校なりの変化を持たせたら上手く行って、実際にはですね、地域の人たちと一緒にやるという形をやったんですけども、地域の人たちの評価も「えらい声がかくなったぞ。」とかですね、「確かに発言の声は大きくなったな。」音楽の先生も「なんでこんなにでかい声が出せるの。」とかってということで、確かに日々の毎日15分の訓練というのは大きいなというふうには思いましたし、一つの取り組みでもあるし、学校現場からは出ない発想だなというのも含めて、私自身はそれが一つの教育として、私自身も二年間経験させて頂いた学習手法ではあ

りました。補足させていただきます。

他にございますでしょうか。ないですか。

はい、それでは、その他の(2)教育次長及び社会教育担当参事報告事項お願いします。

◎櫻井毅社会教育担当参事

ありません。

○代田昭久教育長

はい、それでは引き続きまして(3)学校教育課報告事項お願いします。はい、北原学校教育課副参事お願いします。

◎北原康彦学校教育課副参事

はい、学校教育課からは一つ、ちょっと別紙でご用意させていただきました「小中学校の指定通学路等の危険なブロック塀の撤去に関する補助制度について」というものです。ちょっとそれをご覧頂きたいと思います。これは月曜日の教頭会でも説明をさせて頂いた資料そのままでございます、今までの教育委員会でもブロック塀に対する取組等はお話をさせて頂いておりましたけれど、その対応をじゃあどうするかということで教育委員会とコミュニティスクール、学校運営協議会、保護者の皆様、地域の皆様のご協力いただいた調査結果を踏まえまして、庁内関係課において危険ブロック塀への対応を検討してきた結果でございます。このブロック塀の撤去や回収に関する助成制度につきましては12月議会、今議会でございますがその補正予算に計上されております。また担当課につきましては建設部の地域計画課というところで担当であります、教育委員会としてはこの制度ができて来年1月くらいから広報いいたであるとかホームページで広報されてきますので、それに対する啓発への協力とか、撤去回収に繋がるお知らせ等もぜひしていきたいというふうでございます。まずは指定通学路に面するブロック塀ということが一番の中心で始まった制度でございますので、それは児童生徒への通学における安全性を優先してこれを始めてきたということでありますのでよろしくをお願いします。それが一点です。

それでもう一点、口頭ですけれど、いまインフルエンザがだいぶ流行ってきておりまして、今朝のニュースなんかでもそういうような話も出ましたけれど。市内の学校でも集団感染、学級閉鎖にはまだ至ってないんですけど複数のインフルエンザの罹患者が出てきている状況にあります。ちょっと空気が乾燥しておる等もあるかと思えますけれど。これはまた爆発的に、来週あたりから段々、爆発的にというのは違うな、段々と広がっていく可能性もありますので、そういう状況にあるということでご理解いただければと思います。報告は以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。

続きまして、(4)生涯学習・スポーツ課関係報告事項お願いします。北澤生涯学習・スポーツ課長お願いします。

◎北澤俊規生涯学習・スポーツ課長

はい、よろしくお願いします。それでは、いまちようどお手元に届きましたので、教育委員会の情報誌「Hagu」が届きましたのでよろしくお願いいたします。こちらにつきましては、今回につきましては特集で2ページから5ページにかけて「全国学力・学習状況調査質問紙結果から見える飯田市の子どもたちについて」ということで4ページ特集しておりますのでご覧頂ければと思います。また表紙につきましては、わが家の結いタイムのポスターコンクール応募作品、教育委員の皆さんにも審査を頂きましたが全125作品を掲載ということでよろしくお願いいたします。それから6, 7, 8ページにつきましては、それぞれネット投稿の危険性やエアコン設置についてのお知らせ、それから7ページについては青少年健全育成の取り組みや風越登山マラソン等の報告等をさせて頂いております。8ページにつきましては生涯学習・スポーツ課主催の事業を紹介ということで、それぞれ色々と紹介させていただきますのでよろしくお願いいたします。この「Hagu」につきましては来週から小中学校、続いて各家庭に配布ということでよろしくお願いいたします。

それからもう一点、こちらの「Hagu」の中にもありますけれども、資料No. 1のほうの「第13回キャリア教育推進フォーラム」の開催ということで、飯田市教育委員会につきましてはキャリア教育を進めて参った訳なんですけれども、今年度で13回目となるキャリア教育推進フォーラムの開催ということで、これにつきましてはキャリア教育の成果発表の場として、またキャリア教育への理解を深める機会として開催しております。チラシの中でご覧いただけたと思いますが、今年度の特徴につきましては土曜日の開催を日曜日に変更したこと。これは毎回下伊那教育会の郷土調査部の発表と重なっていたということで、そういったところも配慮しながら変更させて頂いたことと、あと会場は今まで飯田市公民館だったんですが駐車場がないということもありましたので、鼎文化センターへ変更ということでさせて頂いています。今年度につきましても生徒会を中心に中学生に参加を呼び掛けているということで12名の「結いジュニアリーダー」各校の代表生徒が会場の運営や司会進行まで活躍しますのでよろしくお願いいたします。特に後半のフォーラムにつきましては、各中学校で行われている地域と関わる活動についての情報交換や地域との関りについて中学生同士でなくて、会場の大人や高校生と意見交換することで中学生にできることを考えるという機会にして頂きます。このフォーラムにつきましては今年度のキャリア教育の発表の場として行いますので、教育委員さんにつきましては本日教育委員さん宛に通知でお渡ししましたので、出欠席についてはまたこちらのほう、当日座席等ですね、指定して用意しておりますのでよろしくお願いいたします。また出欠席のご報告をお願いします。ぜひご参加をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上であります。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。続きまして馬場文化財担当課長をお願いします。

◎馬場保之文化財担当課長

はい。ただいまお配りいただきました「Hagu」、それから別紙でお配りいたしましたけれども「伊那谷の自然と文化学びあい講座」のお知らせであります。平成25年から開催して参りましたけれども、各社会教育機関で開催する講座等におきまして受講者がだいぶ高齢化してきている、いまの調

査研究に関わる皆さんのですね、年齢が上がってきてなかなか若い世代の方の育成が課題になってきているという中で、入門編の講座を開催していこうというところでもあります。今年度につきましては三回、お示しした通りの日程で開催して参りたいと思っておりますので、ぜひまた覗いてみて頂ければと思います。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。

続きまして(5)公民館関係報告事項をお願いします。秦野市公民館副館長をお願いします。

◎秦野高彦飯田市公民館副館長

はい、本日お配りをいたしました長姫高校の「地域人教育成果発表会」のご案内をさせて頂きたいと思っております。12月21日の日に予定をしております、平成30年度地域人教育成果発表会でございますけれども、午前中鼎文化センターで開催されますので、ご都合がございましたらお越し頂きまして、地域での学びによって成長した生徒の姿をご覧いただきますようお願いをしたいと思います。ちなみに12月7日の南信教育事務所の飯田事務所主催の赤門スクールで、このメンバーがこの地域人教育のプレゼンをしました。そのあとにワークショップがありまして受講された皆さんとの交流というのがありました。その際に、受講された皆さんからこの発表を通じてですね、子ども達が学ぶということで、私たちが学んでいかななくてはいけないということを再確認したというようなお話を何人もされておりました。ちょうど私もそれに参加していたんですけど、そのような内容でいまできているということでもあります。担当の先生も「21日に向けて指導をしているが、既にこれだけのものができるとは思わなかった」という、感想も頂いておりますので、ぜひご都合がございましたらお越しを頂きたいと思っております。よろしくをお願いします。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。

続きまして(6)文化会館関係報告事項をお願いします。宮沢文化会館館長をお願いします。

◎宮沢正隆飯田文化会館長

はい、それでは定例会の資料途中、資料No.2をご覧ください。「人形劇のまちづくりの推進に関する取り組みについて」の12月版ということでまとめてございます。最近行った事業、それから今後の予定の事業等でございます。主なところだけ説明させていただきます。

まず、(1)の公演事業につきましては12月から2月にかけて毎週のように人形劇がみられますので、ぜひご鑑賞いただければと思います。1月5日の日には竹田人形館で「糸あやつり人形劇団みのむし」の公演が2公演予定でございます。別紙に茶色い色の紙で資料をお配りしておりますけれども、竹田人形座の流れを汲む「みのむし」さんの見事な芸を見て頂ければと思っております。それから2月16日の土曜日には「せかいの劇場」ということでこれは詳しく書いてございませんが、オランダの人形劇が来る予定で準備を進めております。

それから(2)の創造支援事業の関係でございますが、今後の予定の中で大人のための人形劇講座と

ということで別紙のチラシにありますが「染・織と人形芝居」ということで、普段人形劇をあまり見る機会のない方もこういった面からぜひ人形劇に関心を持って頂きたいという企画でやっております第二弾でございます。社会教育委員会議の座長の中島さんのお話と、黒田人形を見て頂くという企画で1月14日の祝日でございます。それから人形劇センタープロデュースの新しい人形劇の制作ということでいま「ゆきをんな」の制作準備に入ったところで、来年度の完成を目指して取り組みを始めたところでございます。次のページのほうですが、川本美術館につきましては12月8日から新しい展示になっております。あと下の(4)の学校で行われる人形劇活動への支援の件につきましては、人形劇の巡回公演、今年は保育園25園、小学校3校で実施しております、12月から来年度の希望調査を行っておるところでございます。一番下の人形劇フェスタの関係でございますが、来年のフェスタの日程はそこに書いてある6日間で、現在ポスターとワッペンのデザインを募集いたしております。以上よろしくお願ひいたします。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。

続きまして(7)図書館関係報告事項お願ひします。櫻井社会教育担当参事お願ひします。

◎櫻井毅社会教育担当参事

はい、資料No.3でございます。報告事項のところでは特に(2)の飯田下伊那読書会交流会ということで12月の2日に行いました。これは飯伊婦人文庫の皆さん、それから図書館、それから公民館が共同して取り組んだということでございまして、職員等も入れますと60人くらいで午後各グループの発表等を行いながら交流をしたということでございます。今後の予定については新春おたのしみ企画等、新年に向けたPRをしながら取り組んでいくという段階でございます。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございました。

続きまして、(8)美術博物館関係報告事項お願ひします。池戸美術博物館副館長お願ひします。

◎池戸通徳飯田市美術博物館副館長

はい、口頭で失礼ですが二件ご報告させていただきます。

一件目は寄附金の報告であります。10月から今月に至る間に4件の寄附金、これはどちらも菱田春草顕彰のためということです。金額は総額で40万円になりました。この12月の市議会では第一回目の10万円につき補正予算に計上させて頂いたということでありますので、残りにつきましてはまた次回という流れになっております。いま現在40万ということで4件あったというご報告が一点目。

二点目は、現在リニューアルの閉館中というご案内ですが、重ねてです。12月11日から1月4日まで、年末年始の休み明けまでは工事の関係で閉じておりますことを改めてお伝えしております。また、1月5日からはオープンをいたします。このときの目玉としましては春草常設展の中でこの春、寄贈をいただきました「富嶽」という掛け軸、三保の松原と富士山が入ったものです。春草が

弟のために、弟の結婚式のお祝いにとということで描いたものということで。非常に兄弟愛が深くに
じむものでございますが、修復が終わりつつありまして、1月から展示ということになります。な
お1月は「春草の名品の秘密」というテーマの展示でございますのでぜひ足を運んでいただければ
と思います。以上です。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。

続きまして、(9)歴史研究所関係報告事項。小椋歴史研究所副所長お願いします。

◎小椋貴彦歴史研究所副所長

はい、歴史研究所からご報告いたします。二点ございます。

資料のNo. 4でございますが10月、11月の活動報告ということでございます。歴研ゼミやワーク
ショップの報告がございます。中ほどに「地域史(川路)ゼミ」というのがございまして、旧川路
村の役場文書に残された天竜川争論関係文書を読み解くということで何回か行っております。これ
に関して、歴研ニュースの97号をご覧頂ければと思いますが、その関係の絵図ですとか資料をい
ま歴史研究所のほうに展示をしております。ホームページのほうにも詳しい解説を載せてございま
すので併せてご覧を頂ければと思います。それから歴研ニュースをめくって頂きますと左側のほう
に市民研究員さんの文章がございますが、先ほど予算の要求の中で人材育成というお話をさせて頂
きましたが、こういった形で市民研究員さんが活動しておられますのでよろしくお願ひしたいと思
います。それから最後に一枚紙で白黒で地域史講座のご案内をお配りしてございます。1月の下旬、
「木沢と教育」ということで学校要覧を読み解いていきながら、当時どのような期待を教育にかけ、
どのように教育のあり方を考えたのか、といったことでもあります。二面のほうは2月の上旬の地域
史講座のご案内でございますので、よろしければまたご参加いただければと思います。説明は以上
であります。

○代田昭久教育長

はい、ありがとうございます。

ただいま学校教育課から歴史研究所までの報告事項がございましたが、何か質問、ご意見等あり
ましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、三浦教育次長戻りましたので、何か報告事項ございますでしょうか。

◎三浦伸一教育次長

特別ございません。すみません、中座してました。

○代田昭久教育委員長

はい、それでは定例会含めて何かご意見・ご質問・ご発言ある方はお願いします。

よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは以上をもちまして平成30年度教
育委員会12月定例会を閉じさせていただきます。どうも長時間にわたりありがとうございます。

△日程第10 閉会

代田昭久教育長が閉会を宣言した。(午後4時8分)